

町 長	副町長	課 長	主 幹	担 当	合 議

別記様式第 4 号

会 議 等 結 果 報 告 書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	220
		決裁期日	平成 2 4 年 5 月 2 8 日
名 称	第 1 回観光開発審議会		
日 時	平成 24 年 5 月 24 日(木) 10 時 00 分 ~ 12 時 00 分		
場 所	役場 3 階第 2 会議室		
出席者	委員：宮下吉勝、長田公一、吉田宏、川上幸夫、佐川泰正、本田健祐、中西靖男、多田繁夫 8 名 町：町長、産業振興課長、商工観光班 担当主幹、担当主査 策定業者：北海道 21 世紀総合研究所 高橋功、佐藤公一 アドバイザー (株)HKワークス 林克郎		
内 容	司会進行：産業振興課長 開会（産業振興課長） 辞令交付 ・町長が各委員の自席に移動して、辞令書を交付。 町長あいさつ ・委員承諾と本日の審議会出席のお礼。 ・本日、審議会を設置して、観光振興計画策定を諮問したので、町民皆様の思いを当該計画に入れていただきたい。 ・町内経済が低迷しており、住民生活維持確保が課題である。 ・観光振興計画を策定し、まちづくりに、あらゆる分野が活躍できるよう委員皆様の思いを入れていただきたい。 1 審議会会長及び副会長の選出について 産業振興課長：選出方法については上富良野町観光開発審議会条例第4条の規定に基づき、委員の互選となっていることを説明し互選の方法を打診。 川上委員：事務局案があれば提案してほしい旨の発言があった。 産業振興課長：会長には、かみふらの十勝岳観光協会の宮下吉勝会長、副会長には住民会長連合会の本田健祐会長をお願いしたい旨の提案を行い。各委員全員一致で事務局案どおりで了承され会長及び副会長が決定した。 会長及び副会長の就任あいさつがそれぞれなされた。 2 観光振興計画の策定について 町長から宮下会長(自席)に対して別紙のとおり諮問が行われた。 委員の自己紹介 ・産業振興課長から名簿順に各委員氏名を呼び、各委員が自席で本人の自己紹介。		

### 3 観光振興計画策定委託業務について

- ・担当主幹から、本年12月策定予定の観光振興計画について、4月2日から16日の期間、公募型プロポーザル方式の企画競争実施の公示を実施。4月20日の企画提案書提出期限に5社の応募があった。4月27日に観光振興計画策定委託業務のプロポーザル審査会を実施して委託先を(株)北海道二十一世紀総合研究所に決定し、5月1日から12月24日までの契約締結したことを報告。
- ・(株)北海道二十一世紀総合研究所から事前配付の「平成24年度上富良野町観光振興計画策定業務の進め方」(別添)により、概要説明。
- ・観光アドバイザーの林氏より、具体的な実践事例を紹介。

#### 【質疑応答】

##### (中西委員)

- ・1頁の「観光は地域資源をお金に変える有効なツール」と位置付けているが、以降、これまでのデータ分析がほとんどで、課題解決の方法等が記載されていない。  
経済効果について示されていないが十分に認識しているか疑問である。
- ・観光客が多く観光に来てもお金を使ってくれなければ意味がない。

##### (21 佐藤)

- ・北海道調査の統計では、観光消費額のデータはある。
- ・上富良野町で宿泊して、食べて、買ってもらう具体的なツール(手法)を創ることが、今回の観光振興計画策定の課題と認識している。
- ・千歳市の観光計画策定においても、周遊型観光客の地元消費額が低いことが課題であった。

##### (佐川委員)

- ・平成19年からフットパスで活動している。地域の景観素材は良いと認識している。
- ・フットパス参加者へのアンケート結果では、参加者が主人公になりたがっている。
- ・住民へのアンケート調査では、身近な観光資源発掘に具体的な事例をあげて、記載しやすくしていただきたい。

##### (吉田委員)

- ・地元の農畜産物は素晴らしい。現場(カミホ口荘)としては旬のものを提供できないことが課題である。JA 経由の物流が問題か。個々で発注・運搬してもコストの面で厳しいので、複数施設で提供できるようにならないか。
- ・かみふらの十勝岳観光協会や北海道観光振興機構からメールで最新情報が発信されているが、現場としては生かしきれてない。
- ・10月から6月までの閑散期にカミホ口荘として、札幌間の送迎バス(費用と許可の関係から白バス運行で宿泊者のみ搭乗)を運行した。主要都市間の送迎バスの情報発信と維持を検討しなければならない。

##### (多田委員)

- ・次回会議まで、かなりの時間があるので、各情報の共有を。
- ・林先生が事業紹介していただいた「人材」が重要であり、その体制づくりをどうするのか、十分検討いただきたい。

### 4 今後の進め方について

- ・(株)北海道二十一世紀総合研究所から3により、資料で説明済み。
- ・深山主幹より、予算の都合により、報酬を支給できる審議会の開催回数が少ないため、個別訪問、打

合せ方式、書面会議等により審議をフォローしていきたい。

最後に

- ・宮下会長から挨拶。
- ・いままでの課題が全て今回説明された資料に記載されており、十分な審議により観光振興計画を答申していきたい。

以上で終了